**京都伝統文化の森推進協議会/第34回身心変容技法研究会合同公開セミナー**

**「森と身心変容」**基調講演①

「木彫刻のアニミズム」

三宅 一樹（彫刻家）

日時：2015年3月5日（木）13：00～17：00

場所：京都大学稲盛財団記念館3階大会議室

講演レジュメ

* 彫刻における森と身心 「人間というフィルターを通過して芸術に変容する」
* 生命体としての木　 「木はマテリアルではない」
* 彫刻の身体　 「bodyであると同時にspiritである」
* 森から看取した彫刻家 「円空と橋本平八のセレンディピティ」
* 木彫刻の一元論　　 「木はサイズではない。人間と同じ一期一会である」
* 木の生き様を知る　 「木にも優等生型と苦労人型がいる」
* 生育の記憶　 「木は過去の経験を全てその身体に遺している」
* 木を彫る前の儀式　　 「木との対話」
* 木材の乾燥　　 「木の水分は樹液であり、人間の体液と同じである」
* 木彫道具の祈り　　 「一刀三礼」
* アニミズムとは何か　 「カミとホトケ、絶対的実在（something great）」
* カミのかたち　　 「注連縄は最も原初的なアニマの形象化である」
* カミとの接点　　 「依代（よりしろ）、神籬（ひもろぎ）、御嶽（うたき）」
* ホトケの輸入　　 「日本人は仏教を“異教の神”にしなかった」
* 神仏習合　　 「カミの影向（ようごう）、カミとホトケの融合」
* 霊木化現　　 「異形の仏像には理由がある」
* 霊木の種類　　 「御神木、霹靂木、立木信仰」
* 鉈彫りのアニミズム　 「カミが現れる途中であるメッセージ」
* 神像について　　 「神像はなぜ坐像が多いのか」
* 丹朱（にしゅ）　　 「色による僻邪・畏怖・呪術的霊力」
* 三宅一樹の神像彫刻　 「《貴船水神》《磐座女神》《スサノオ》誕生エピソード」
* 御神木デッサン 「目的は描くことよりも、木のアニマを看取することにある」

三宅 一樹　 Ikki Miyake profile

略歴

1973年　東京都練馬区生まれ

1996年　多摩美術大学美術学部彫刻科 卒業

1998年　多摩美術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了

2009年　多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程 修了、博士号（芸術）取得

主な展覧会

2001年　“第1回 あさご芸術の森大賞展”〈準大賞〉(あさご芸術の森美術館 / 兵庫)

2003年　個展“素脚詞” (みゆき画廊 / 東京)

2005年　“第40回 昭和会展”〈日動美術財団賞〉(日動画廊 / 東京)

2006年　個展“Yoga” (ギャラリーせいほう / 東京)

2007年　“LE MONDE DE COCO～現代アーティストたちによるココの世界”

(CHANEL NEXUS HALL / 東京)

2008年　個展“Ikki Miyake -YOGA” (aqua art miami AQUA WYNWOOD / Miami・USA)

2010年　個展“氣” (YOKOI FINE ART / 東京)

　　　　「創造と回帰」現代木彫の潮流（北海道立近代美術館 / 北海道）

2011年　個展“神像彫刻 －INFINITY－” (YOKOI FINE ART / 東京)

2012年 “MIE : a portrait by 35 artists”

（FREIGHT＋VOLUME gallery NEW YORK／USA）

“The Power of Japanese Contemporary Sculpture”(AKI Gallery／台北)

2013年“SOTHEBY’S 40th Anniversary Evening Sale”(SOTHEBY’S/香港)

2014年 個展“樹の聲を聞く”神像彫刻と板絵 (ギャラリーせいほう / 東京)

　　　　“Currents: Japanese Contemporary Art” (CHRISTIE’S/香港)

　　　　“感じるからだ”展 （北海道立旭川美術館 / 北海道）

2015年 “木を彫る”展　収蔵品展050 (東京オペラシティアートギャラリー/ 東京)

“悲とアニマ — モノ学・感覚価値研究会展”(北野天満宮/ 京都)

主な研究論文

2009年　『木彫刻の心技体 -ものつくりのアニミズム』多摩美術大学博士論文集 第6号

2012年　『木彫刻のアニミズム』多摩美術研究 第1号

アトリエ榧乃舎 (かやのや) <http://www.atelier-kayanoya.com>